



玉垣小学校だより

令和6年6月5日（水）学校通信 第4号

「**学校運営協議会**」って、ご存じですか **5/23(木)**

先日、本年度第1回の学校運営協議会が本校図書室で行われました。

学校運営協議会制度（鈴鹿型コミュニティ・スクール）とは、学校と保護者と地域の皆さん

が「どんな子どもを育てていくのか」、「どんな学校、地域にしていけるのか」を共に考え、知恵を出し合い、めざしたい子どもや地域の姿を共有し、協働しながら「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

玉垣小学校にも学校運営協議会があります。参加者は、学校代表以外に保護者の代表の方々、地域の自治会長や主任児童委員の方々等、約10名ほどです。（委員長は西玉垣町自治会長の城ノ口和幸様です。）

この会議は年間6回行われます。毎回子どもの姿や学校の実態に基づいて協議をしていきます。話し合われた中身については、「学校だより」等で毎回お知らせしていきます。

このように学校運営協議会は、より良い学校づくりに向けて、保護者の方や地域の方の声を学校教育に反映させる場として、委員の皆さんによる活発な協議をこれからも実施していきます。

第1回会議で出された主なご意見等です

（1）令和6年度学校経営方針について

（学校より）

- 教科指導の根本に学級づくりがある。授業づくりと学級づくりの両輪が大切。
- 自己肯定感を高める集団づくりは人権教育のメインとなる。
- ほっとルームの活用は対象児童の居場所として大切な場になっている。
- チーム担任制で学年の教員等全員で児童に丁寧に対応していく。

Q 「個別最適な学び」において、自己選択させる場とは何か？

A 目的、ゴールに向かう道筋は全員同じではなく、その道筋を児童に選択させる場が必要であるということです。

Q 先生たちの時間外労働の数が多いが、目標0に向かうことは大変ではないか？

A 基本方針1にもあるように、教職員の心身の健康が児童の成長にはとても影響がある。勤務時間縮減に向け、努力していきたい。

・令和6年度学校経営方針について【承認】→学校ホームページをご覧ください。

(2) 学校関係者評価の目標部分、学校配当予算、年間行事予定について

(学校より)

- ・鈴鹿市全体で非認知能力育成に今年度から取り組む。数値に表しにくい能力だが普段の指導から大切にしていく。(自己肯定感、やりぬく力、自制心、社会性)
- ・特別支援教育コネクター部を中心に、早期支援体制づくりを推進する。

Q 講師謝礼は予算が0だが、どうするのか？

A 市や県等謝礼がいない方を中心に講師としてお願いし、研修会を実施している。

(3) 教職員の働き方改革

(学校より)

- ・教員の数も少なく、なり手も少ない現状である。産業医の助言も得ながら、教員の多忙感を減らす努力をしている。
- ・「学校が担う業務の3分類」から考えても、登下校や放課後、土日の児童トラブルの対応は、本来学校の業務ではないが、実態は学校が対応せざるを得ない現状がある。地域で協力してもらうことも考えられないか？

(4) その他

- ・地域での子どもへの声かけがしづらくなっている。不審者と思われることもあるので学校関係者という腕章を巻くのも1つの方法である。
- ・朝よりも帰りに事故が心配である。クラクションを鳴らすとにらんでくる等、マナーが悪い児童も時々いる。

※ 学校経営方針、学校関係者評価、学校配当予算、年間行事予定等は玉垣

小学校ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。